

若手による研究基盤の实地調査 第1弾

・目的

若手ネットワークメンバーと各機関の研究基盤に関わる人材が現場視察を通じて連携し、現場レベルでの実情や課題を政策へ反映していくことを目的とする。

・日程

9月6日（水）午後（施設見学:15時～17時30分 意見交換会:18時～19時）

・場所

熊本大学黒髪南キャンパス

・参加者（若手ネットワーク）

稲角直也、植原邦佳、江口奈緒、廣瀬孝三郎、松本香、横野瑞希、木戸拓実

・内容

【施設見学】（見学順）

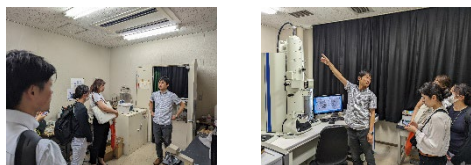
1. 環境安全センター

片山 謙吾 技術主任（技術部自然科学系第三技術室）



2. 理学部生物系共通機器

百武 慶一郎 技術主任（技術部自然科学系第三技術室）

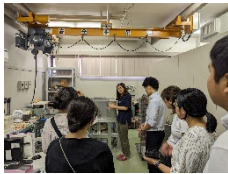


理学部生物学教室共通機器:TEM、超遠心分離機

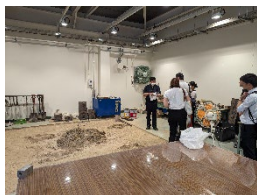
3. 黒髪地区アイソトープ施設

奥村 梓 技術職員（技術部自然科学系第二技術室）

上村 実也（技術部自然科学系第三技術室）



4. 工学部工作機器センター、工学部資料館
倉田 大 技術専門員（技術部自然科学系第一技術室）



【意見交換会】

場所：工学部 1 号館 2F 共用会議室 C、オンライン併用（Teams）

企画タイトル「若手が考えるチーム共有」

進行：木戸

0. 自己紹介 各 1 分程度（計 9 分）

1. 若手ネットワークについて（横野）

2. 各大学の取り組みについて（参加者それぞれの業務内容、課題や問題意識を共有）（熊本大学参加者 3 名（倉田、百武、池田）＋若手ネットワーク 3 名（江口、稲角、廣瀬））

3. 意見交換

4. 締め



（概要）

若手ネットワークの横野より、本ネットワークの紹介を行った。その後、本ネットワークの3名から以下のとおり発表が行われた。

- ・大阪大学コアファシリティ機構の機器共用について（江口）
- ・抱える課題と問題意識（私が考えるチーム共用）について（廣瀬）
- ・NMR等の機器共用について（稲角）

熊本大学においては、研究基盤を支えている人材3名より、日頃の業務および現場実情について説明が行われた。

全体をつうじて、人材の確保・育成、評価、データ共有についてのディスカッションを進め、議論のなかで、現業務を実施する中での進め方、お互いの業務理解、専門性がある中での一律の評価基準の難しさ、縦横のつながりの重要性などが挙げられた。

【本活動における所感】

環境安全センターや工作機器センターなど幅広い分野の施設を回り、異種の機器等の説明を技術職員からレクチャーされる機会を得たのは非常に有意義な時間であった。また、若手ネットワークのこのような活動が、施設見学に対応していただいた技術職員の方々にも刺激になり、win-winの企画であったことが参加者の意見から伺うことができた。

今回、熊本大学側の参加者の方々には共用というワードに馴染みがあまりないという背景があった。ただ、そんな中でも、異なる業務をしている人材が集結し、施設管理（設計集データなど）、評価、人材確保・育成など自身に関わる業務の中で、それぞれが「チーム共用」について議論し、考える場を設けることができたのは非常に大きな成果だといえる。

【今後の活動について】

所感でも述べたように、双方にメリットがある活動だと感じた。全国規模になれば、研究基盤協議会の周知だけでなく、技術職員間の意識・行動改革にもつながり、各機関内での波及効果が生まれ、協議会のミッション達成にもつながることが期待される。

【今後の視察における注目点】

- ・技術職員、事務職員、URA（機器共用に携わるか否かに関係なく。）を含めた意見の収集。
- ・共用機器以外を含めた各機関における有用性のある機器見学。

【提言につながるキーワード】

ONE TEAM（組織をあげてのチーム体制）、多様な専門性の評価、業務・専門性の共有